

# 中条堤・カスリーン台風決壊現場・母子島遊水池 見学会



利根川の治水のかなめ「中条堤」と昭和22年に発生した「カスリーン台風」による利根川の決壊現場と利根川本川からの逆流の影響を広く受けってしまうという特徴を有している小貝川。昭和61年8月の台風10号による集中豪雨で24時間雨量300mmという記録的な集中豪雨に見舞われ破堤し、甚大な被害がありました。

この災害を契機に、被害の大きかった母子島（はこじま）地区を遊水地に造成するとともに、その地区内に点在していた5集落を集団移転させ、遊水地内に新しい町をつくるという全国でも例のない改修事業を行いました。

今回の見学会は、以上3ヶ所の見学を行います。

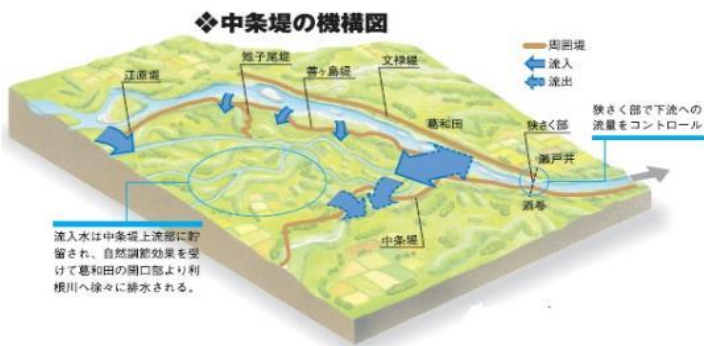
下記のとおり実施いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時	令和4年7月3日（日）	8:00集合・出発
集合場所	JR新小岩駅 東北広場（裏面地図参照）	
参加費	1,000円（資料、交通費の一部として）	
募集人数	35名（先着順）	eizoutoshikeikaku@gmail.com 携帯 080-4006-8819
行程	8:00	出発（集合次第出発します）
	10:00	中条堤見学
	11:30	道の駅動揺のふる里おおとね お土産購入（産直野菜など）
	12:10	カスリーン公園（決壊現場見学）
	14:30	母子島遊水池見学
	17:00	JR新小岩 東北広場 到着予定（道路状況により流動的です。）

※当日は、次のことに関してご理解、ご協力をお願いします。

- ・マスク着用をお願いします。・乗車中は飲食を禁止します。水分補給はストローを利用し、マスクを取らずに飲める工夫をお願いします。
- ・昼食は、ご持参いただき野外での飲食又は途中休憩時間などをお願いします。

主催 市民防災まちづくり塾実行委員会・関東地域づくり協会



「狭さく部」と「文禄堤」と三位一体となって江戸を防衛  
**【利根川治水のななめ「中条堤」】**

築造年は不明であるものの中条堤は、利根川治水のななめとして、明治四十三年の大洪水まで、機能し存在していました。中条堤は、「酒巻村・瀬戸井村の狭さく部」と「左岸の文禄堤」とともに漏斗(じょうご)の形を構成しています。利根川上流部で発生した洪水は、まず江原堤で一部が越流し、中条堤へと向かいます。本川の洪水は越流しながらも、その勢いを失うことなく、「左岸の文禄堤」に沿いながら突き進みながら、狭さく部においてその行き場を阻まれます。波打つ利根川の洪水は、人知の作により、その行き場を失い中条堤沿いに流れ出し、この地に滞留をはじめるのです。こうして一連の治水施設は大きな漏斗として遊水機能を発揮し大河・利根川の洪水を「貯留・調節」、酒巻・瀬戸井より下流の洪水が制限され、これより下流の利根川を、流量的には中小河川規模の扱やすい河川としています。

しかし、江戸を大洪水から守ったこの治水施設は、当時から論所堤とも呼ばれ、中条堤を境に水害頻度の高い上流部と、比較的安全度の高い下流部の人々の対立を招くこととなり、この問題は明治二十三年には帝国議会にまで取り上げられるに至り、明治四十三年の洪水で破堤後、この修復をめぐるさらに論争が起こり、埼玉県議会で、警察隊まで出動する騒ぎとなり、ついに全面改修されることなく、この論議は終止符を打ちます。この一大治水システムの終焉により、現在に見られる「洪水を河道内に閉じ込めること」を目的とした洪水調節が大幅に必要なようになってきたといわれているのは、まさに中条堤が利根川治水史上きわめて重要な意義をもっていたことを伺わせます。国土交通省利根川上流河川事務所パンフレットより抜粋

### カスリーン台風

昭和22年9月8日、南方洋上に発生したカスリーン台風は、9月15日に房総半島南端を通過し関東・東北地方に多くの被害をもたらしました。カスリーン台風発生時、日本列島には秋雨前線が停滞していたため全国的に雨のところが多く、関東地方でもカスリーン台風が去るまでの間、熊谷で約338mm、秩父では約610mmという記録的な豪雨となりました。

これにより、利根川では埼玉県東村(現加須市)と茨城県中川村(現坂東市)で堤防が決壊し、東村の決壊による氾濫流は埼玉県下にとどまらず、東京都葛飾区、江戸川区にまで侵入しました。また、渡良瀬川や渡良瀬遊水地周辺の堤防12箇所においても堤防が決壊し、川辺村(現加須市)では最高水位5.5mに達し、湛水期間は1ヶ月にも及びました。

カスリーン台風による被害は関東地方で家屋の浸水約303,160棟、家屋の倒壊・半壊約31,381棟、死者は1,100人にのぼりました。



### 小貝川・母子島遊水地(はこじまゆうすいち)

【特有の歴史、先人の知恵の活用】

小貝川は、栃木県那須烏山市小貝ヶ池付近に源を發し、南下して五行川および大谷川を合わせ、茨城県常総市水海道地先で流向を南東に変えて、茨城県北相馬郡利根町押付新田地先で利根川に合流する利根川の主要支川で、その本川流路延長は112km、全流域面積は1,043km<sup>2</sup>です。小貝川は、流域の86%が平野であり、河川の勾配が緩いため、洪水の継続時間が長く、氾濫時の出水が引きにくい、利根川本川からの逆流の影響を広く受けてしまうという特徴を有しています。最も利根川本川の影響を受けたのが昭和56年の洪水であり、小貝川単独での出水は小さかったものの、利根川本川からの逆流により龍ヶ崎市高須地先において堤防が破堤し、浸水面積3,396ha、浸水家屋5,847戸の甚大な被害を受けました。

また、河川勾配の緩いことが最も影響したのが、昭和61年8月洪水です。台風10号による集中豪雨で24時間雨量300mmという記録的な集中豪雨に見舞われた小貝川が破堤に至ったのは、台風一過で快晴という天気の下でした。雨が上がった安堵感につかっている人々の目の前で、小貝川の水位は留まる気配を見せずに上昇し、ついに明野町赤浜(現在の筑西市赤浜)地先で溢れ、氾濫水が流域を襲いました。無堤地区からも濁流が流れ込み、下館市(現在の筑西市)の約1/4が浸水しました。さらに下流の石下町(現在の常総市)において漏水から堤防が決壊するに至り、被害は4,300ha、浸水家屋4,500戸に及びました。

この災害を契機に、被害の大きかった母子島(はこじま)地区を遊水地に造成するとともに、その地区内に点在していた5集落を集団移転させ、遊水地内に新しい町をつくるという全国でも例のない改修事業を行いました。

### 注意事項

1. 視察は徒歩経路もありますので、運動靴等の靴は必須。服装は、多少汚れてもよいもの(ジーパン等)をお願いします。
2. 徒歩での移動もありますので、両手が使えるようカバンはバックパックをお勧めします。飲料水もお忘れなく。万一に備えて雨具の用意もお忘れなく。なお、雨天の場合は視察ルートが変わります。
3. 場合によっては、遠方からの見学になるため、双眼鏡等をご持参下さい。

### 新小岩駅東北広場案内図



### 集合場所

JR新小岩駅北口から北口連絡通路を渡って、ロータリー広場にお集まりください。

